

泉大津急性期メディカルセンター

Izumitsu Medical Center

No. 16-059-2023作成

新築
病院

発注者	泉大津市	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
基本設計	株式会社大建設	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
実施設計・監理	戸田建設株式会社一級建築士事務所	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		
施工	戸田建設株式会社					

持続可能な医療提供へ向けて

公設民営の病院統合事業

本事業は、泉大津市立病院と府中病院の再編統合計画の一環として建設される、300床の高度急性期病院である。泉大津市において、将来の医療需要を踏まえた持続可能な医療提供体制を構築するため、病床機能の統合・再編、ネットワーク化の実現を目指す。地域の中で高度化・専門化した分野の医療を主として担い、救急医療、災害医療、感染症対策を強化した病院となることが求められる。そこで、以下の5つのコンセプトと具体的計画を基軸として計画が行われた。

5つの方針と計画

- 方針①：高度急性期医療を提供する運動性能の良い病院
計画：動線の合理化、関係部門の機能強化、稼働率の高い手術室
- 方針②：患者様・スタッフ様にやさしく快適な環境づくり
計画：患者アメニティの充実、看護業務の効率化
- 方針③：365日・24時間止まらない安全で安心な病院
計画：免震構造、ノンダウンホスピタル、感染症対応
- 方針④：北泉州地域に根差した地域密着型
計画：人口変動対応、地域貢献、工期短縮で負担軽減
- 方針⑤：地域環境にも配慮した省エネルギーな病院
計画：LCCの削減、低炭素社会への貢献、CASBEE-Aランク

意匠・構造・設備計画における工夫

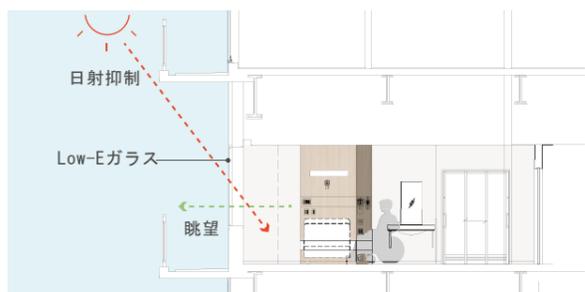
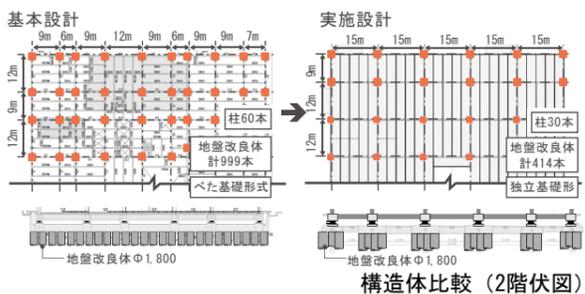
- ①底の設置による空調負荷低減
病棟階の南・東・西面に庇・設備バルコニーを設け、日射遮蔽を行うと共に、高射熱・高断熱ガラス（Low-Eガラス）を採用し熱負荷低減を図った。
- ②大スパン化による基礎・地盤改良本数削減
基礎構造を独立基礎形式とし、基礎躯体数量と地盤改良体本数を削減した。また、大スパン化により将来可変性も向上する。
- ③施設全体の設備機器の効率化
ビルエネルギーマネジメントシステム（BEMS）により、機器及びシステムのエネルギー使用量を管理・分析し、施設全体のエネルギーの最適化を図る。



北面外観

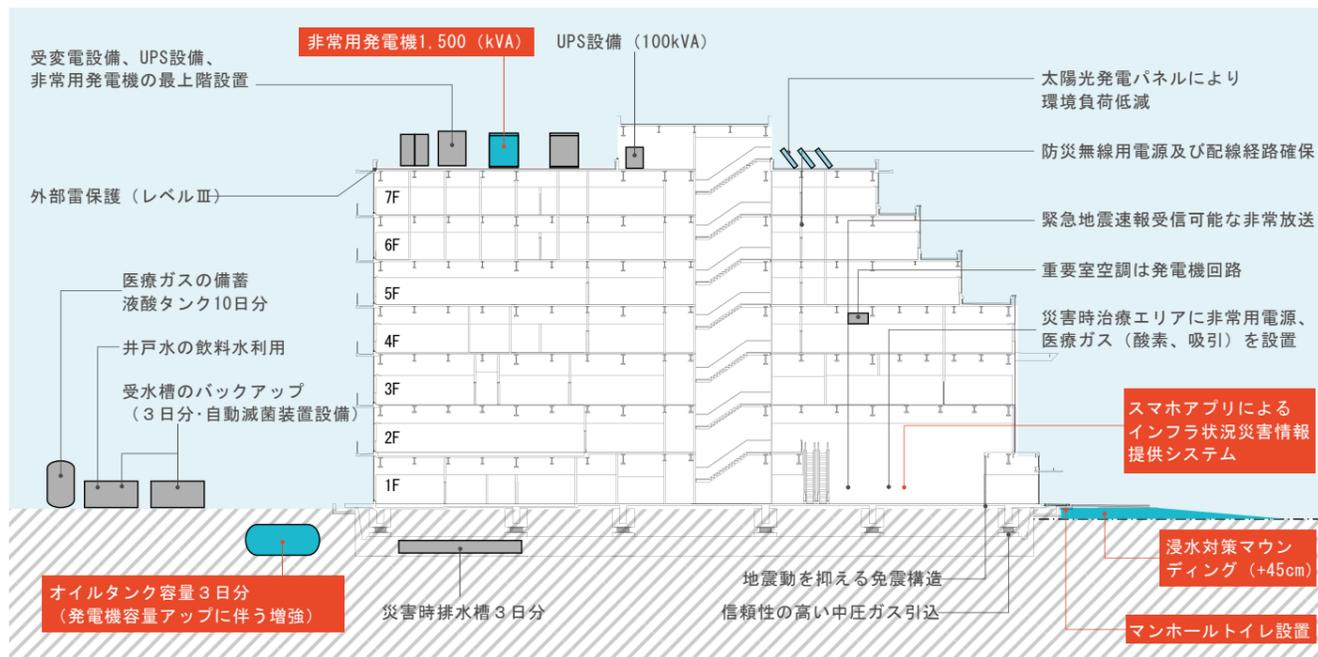
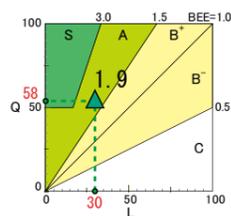


エントランスホール スタッフステーション



病棟断面図

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地 大阪府泉大津市	LCCO ₂ 削減 23 %	Aランク BEE=1.9 2016年度版 自己評価
竣工年 2024年		
敷地面積 12,722㎡		
延床面積 30,472㎡		
構造 S造一部RC造		
階数 地上7階		



異常気象に対応する安全設計

激変する気候変動への対応として、1階の床レベルを設定地盤レベルより45cm高く（マウンディング）することで、豪雨時における建物内への浸水のリスクを抑え、医療継続可能な計画とした。

災害時の施設運用を円滑に行うソフトとの連携

地震モニタリングシステム「ユレかんち」、災害時機能継続サポートシステム「ききみエール」の2つのスマホアプリにより、地震情報を瞬時に確認、災害時のインフラ状況を見える化した。施設内の中央監視設備とクラウドデータベース情報の連携を行い状況をスタッフ間で共有することで医療継続をサポートする。「ユレかんち」では、地震時の建物の揺れを測定し、建物の健全性を判定する。「ききみエール」の平常時モード（緑）では、エネルギー使用状況や発熱監視情報などが閲覧可能。災害時モード（赤）では、建物や設備の損傷状況やインフラの供給状況、トイレやエレベーターの制限情報などが確認可能となる。

「感染症対策ユニット」によるゾーニング計画

パンデミック時は可動式の「感染症対策ユニット」を活用する。これにより、感染症患者数に合わせて段階的に対応病室を増減させ、フレキシブルな感染管理区画が可能となる。また、病室を陰圧に切り替えられる換気システムを導入し、スタッフが安心して働ける環境を整備した。



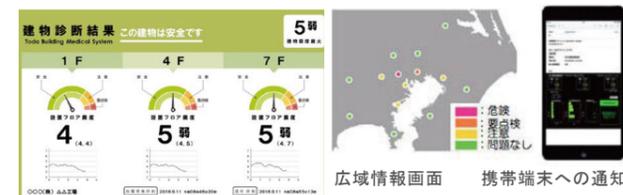
設置イメージ

設計担当者
統括：有賀雅尚/建築：岡村信之、小林圭介/構造：篠崎淳/設備：太田裕司、田中宏達

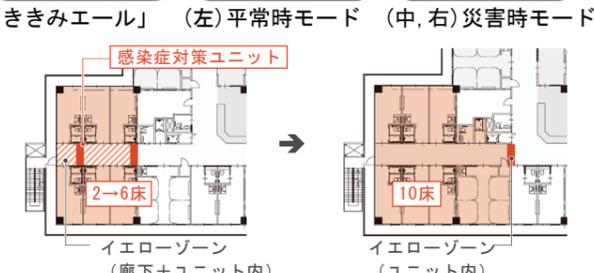
主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性（オイルダンパーによる損傷制御、免震装置、受水設備の二重化、精密機器の地下設置無）
- Q2. 3. 対応性・更新性（階高のゆとり、空間形状、更新・修繕時の建物機能維持、バックアップスペースの確保）
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制（バルコニー・庇等の設置、高性能ガラス、設備システムの高効率化）
- LR2. 1. 水資源保護（節水型衛生器具、井水利用）
- LR2. 2. 非再生資源の使用量削減（機械式接手の採用、リサイクル資材、再利用可能ユニット部材）
- LR3. 1. 地球温暖化への配慮（ライフサイクルCO₂排出率が一般的な建物（参考値）の77%）

設備的な医療継続計画の概要



「ユレかんち」建物震度・建物健全性表示画面



段階的な感染ゾーニングのイメージ